

酒類行政の基本的方向性 ～主に産業振興の観点から～（概要）

【国税庁の使命】「酒税の適正かつ公平な賦課及び徴収」「酒類業の健全な発達」

酒類業界の現状

国内市場の状況

国内市場は、中長期的に縮小。他方で、清酒の出荷金額単価上昇がみられるなど、高付加価値化の動きも。

酒類輸出の状況

品目別にはウイスキーや清酒、国・地域別には中国やアメリカが輸出を牽引。

酒類業界の主な課題と国税庁の取組

課題

商品の差別化・高付加価値化等

海外市場の開拓（輸出促進）

技術の活用と人材の確保等

中小企業支援

酒類業の振興

コンプライアンスの確保

公正な取引環境の整備等

免許制度等の適切な執行

ブランド化推進事業

輸出拡大実行戦略の推進

酒類業構造転換支援事業（ICT技術の活用）

業界団体との連携

酒類の製造及び販売業免許の審査等

酒類の取引状況等実態調査

酒類業構造転換支援事業（新商品・サービスの開発）

酒蔵ツーリズムの推進

日本酒等のユニークな文化遺産登録に向けた取組の推進

中小企業向け施策の情報提供（関係省庁・機関、地方自治体等との連携）

酒類製造場・販売場の実態把握

「酒類の公正な取引に関する基準」の見直し

地理的表示（GI）制度の活用

展示会出展、バイヤー招へい、商談会

酒類総合研究所による技術支援

技術相談等の技術支援

酒類業組合の監督

アルコール健康障害対策推進基本計画（第2期）の推進

表示基準の周知・見直し等

国際交渉

酒類総合研究所による技術支援

技術相談等の技術支援

適正な表示、品質・安全性の確保

20歳未満の者等の飲酒防止対策

国税庁の取組